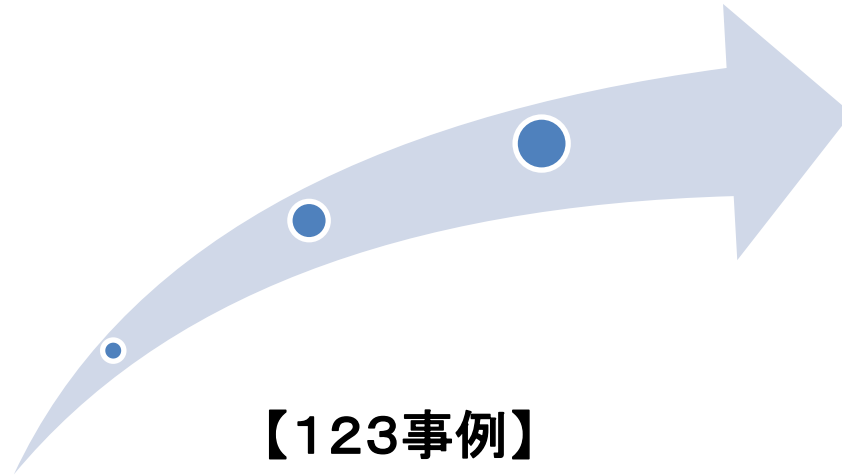


6次産業化の取組事例集



【123事例】

平成22年6月

農林水産省生産局

取組の概要			取組主体の所在地	ページ
1	加工	地場産野菜や果実を利用した加工品の製造	長野県中野市	P.1
2	加工	生産出荷組合を設立し、冷凍野菜を周年供給	千葉県香取市	
3	加工	冷凍えだまめの加工施設の整備による生産・加工・販売の一体化	北海道中札内村	
4	加工	冷凍・カットほうれんそう加工施設の整備による生産・加工・販売の一本化	宮崎県野尻町	
5	加工	漁協女性部による水産加工品の製造	宮城県亘理町	P.2
6	加工	地域特産物のいちじくを活用したジャムの加工	大阪府羽曳野市	
7	加工	付加価値向上を目指した地域特産物の加工	京都府南丹市	
8	加工	高糖度のブランドみかんを使った加工	和歌山県有田市	
9	加工	地元産そばの農家レストランによる提供とそば焼酎の限定販売	秋田県雄勝郡	P.3
10	加工	自家生産コシヒカリを用いた米粉パンやお米麵の製造・販売	福井県福井市	
11	加工	地域資源である「ハトムギ」を有効活用した「はとむぎ茶」の開発	富山県氷見市	
12	加工	手作り「ごはんば〜が」で地産地消と米の消費拡大	石川県能美市	
13	加工	ゆずを用いた特産品づくりで地域活性化	岐阜県関市	P.4
14	加工	にんにくで中山間地域の活性化	岐阜県山県市	
15	加工	チーズづくりを通じた地域活動の実施	北海道二世郡	
16	加工	自家製の小麦や卵など用いたお菓子の製造	北海道夕張郡	
17	加工	集落の全戸参加によるそばづくり	鳥取県鳥取市	P.5
18	加工	絹製品の開発などによる養蚕文化の継承	群馬県富岡市	
19	加工	女性グループが手作り漬物を秋田から全国へ	秋田県横手市	
20	加工	遊休農地を活用した健康食品づくり	埼玉県寄居町	
21	加工	地場産夏みかん、たけのこを活用した加工品の製造、販売	大阪府和泉市	P.6
22	加工	地元菓子製造業者との連携による枝豆の生産と加工	宮城県栗原市	
23	加工	健康果実「アドベリー」による6次産業の創造	滋賀県高島市	
24	加工	遊休資源「桑」を生かした農業の6次産業化	島根県江津市	

取組の概要			取組主体の所在地	ページ
25	加工	酪農業を営む傍らヨーグルトの商品化	兵庫県小野市	P.7
26	加工	加工業者との連携による新たな加工品の開発	山口県	
27	加工	漁村女性のパワーで「へしこの会社」を設立	福井県美浜町	
28	加工	「生産」から「流通・販売」までつなぐ事業の展開	千葉県旭市	
29	直売	立地条件を活かした完熟マンゴー栽培・販売	沖縄県石垣市	P.8
30	直売	巡回集荷や直売所のネットワーク化による地産地消の推進	島根県雲南市、飯南町、奥出雲町	
31	直売	直売所開設による消費者への直接販売	長崎県西海市	
32	直売	米の産直による独自ブランドの確立	熊本県南阿蘇村	
33	直売	観光農園でのいちごの直接販売	福岡県古賀市	P.9
34	直売	島内初の有人直売所で地産地消を推進	長崎県五島市	
35	直売	観光りんご園で定価での直接販売、オーナー制の導入	佐賀県唐津市	
36	直売	直売による都市近郊農業の活性化	千葉県柏市	
37	直売	安全・安心・新鮮をモットーとした直売所	石川県小松市	P.10
38	直売	ホタテガイの直接販売	青森県野辺地町	
39	直売	地域住民の声から生まれた直売所	愛媛県愛南町	
40	直売(植物工場)	植物工場による野菜生産と直接販売	千葉県松戸市	
41	レストラン (植物工場)	植物工場による安全性の高い野菜の生産・販売	福井県美浜町	P.11
42	輸出	ももを台湾へ輸出	山梨県笛吹市	
43	輸出	地域条件を活かした観葉植物の輸出	東京都八丈町	
44	輸出	いちごを東南アジア地域へ輸出	香川県木田郡	
45	輸出	長いもを台湾、アメリカへ輸出	北海道帯広市	P.12
46	輸出	高級ぶどうジュース等の輸出促進による産地の活性化	秋田県横手市	
47	輸出	レタスを台湾へ輸出	長野県南佐久郡	
48	輸出	ブランドりんごの輸出による生産意欲の向上と販路拡大	山形県西村山郡	

取組の概要			取組主体の所在地	ページ
49	契約取引	観葉植物の大規模生産・直接販売により、地域活性化に貢献	愛知県岡崎市	P.13
50	契約取引	加工・業務用キャベツの契約取引といった新たな流通を展開	北海道鹿追町	
51	契約取引	外部の力を投入し、経営力・魚の価値を高める	静岡県熱海市	
52	契約取引	農協が生産者から全量買い取りした上で実需者と契約取引を展開	茨城県結城郡八千代町	
53	契約取引	はくさいの長期契約栽培による野菜経営の安定・向上	宮城県加美郡加美町	P.14
54	産地リレー	中間事業者を介した産地リレーの取組	茨城県茨城町	
55	産地リレー	複数の農業生産法人の連携による産地間リレー出荷の展開	東京都大田区	
56	産地リレー	生産者が流通業へ進出して産地リレーを実践	長野県御代田町	
57	レストラン	中山間地域で頑張る農家レストラン・民宿	徳島県吉野川市	P.15
58	レストラン	伝統野菜をつかった農家レストラン	奈良県奈良市	
59	レストラン	地場農産物をつかった「漁港めし」の提供	京都府伊根町	
60	レストラン	めん羊の飼育及びレストランの経営	北海道せたな町	
61	レストラン	肉用牛部門を核とした6次産業化の展開	大分県玖珠郡	P.16
62	レストラン	自ら生産した農産物を利用したおふくろの味を提供	宮城県遠田郡	
63	レストラン	休耕田を有効活用した地域特産品づくり	三重県松阪市	
64	レストラン	「棚田のそば」を用いたそば屋の展開	岡山県美咲町	
65	ネット販売	少量品種や規格外の魚をネットで販売	福島県	P.17
66	加工・直売	地元の魚を利用した加工品の製造・販売	大分県佐伯市	
67	加工・直売	加工グループの組織化による多様な加工品等の直売	秋田県横手市	
68	加工・直売	米粉パンの製造・販売等により、経営の多角化・安定化を実現	岩手県奥州市	
69	加工・直売	果実の大規模生産と加工及び販売の一体化	愛知県日進市	P.18
70	加工・直売	水産物の加工・直売	兵庫県たつの市	
71	加工・直売	なにわの伝統野菜の生産・販売	大阪府河南町	
72	加工・直売	「環境こだわり米」を使った加工品の製造・販売	滋賀県東近江市	

取組の概要			取組主体の所在地	ページ
73	加工・直売	地場産もち米の加工販売	滋賀県甲賀市	P.19
74	加工・直売	地元農産物の有効活用により、耕作放棄地を解消	富山県富山市	
75	加工・直売	販売・加工で地元住人雇用の機会を創出	兵庫県佐用町	
76	加工・直売	ブランド肉豚の生産、加工、直売と温泉等との多角経営	宮城県柴田郡大河原町	
77	加工・直売	女性グループが起業し、地域に雇用を創出	岐阜県白川町	P.20
78	加工・直売	都市近郊での観光農園で農産物の加工・販売	栃木県岩舟町	
79	加工・直売	母ちゃんパワーで地域農業の活性化	岩手県花巻市	
80	加工・直売	トマトの多角経営による地域活性化	福島県いわき市	
81	加工・直売	地元の魚の加工・移動販売車による販売	石川県輪島市	P.21
82	加工・直売	地元産そばを使ったそば処の経営	奈良県桜井市	
83	加工・直売	サンマの加工・販売	北海道釧路市	
84	加工・レストラン	地域資源を生かした農村体験、どぶろく作り	兵庫県富岡市	
85	加工・レストラン	加工品、体験工房などを通じて伝統文化を継承	三重県多気郡	P.22
86	加工・レストラン	地域特産の「四方竹」の加工等による周年需要の創出	高知県南国市	
87	加工・レストラン	川魚料理専門のレストラン	鹿児島県霧島市	
88	加工・直売・レストラン	米パン工房と農家レストランを併設した食文化提案型直売所	福井県福井市	P.23
89	加工・直売・レストラン	高付加価値ジェラートの開発	滋賀県東近江市	
90	加工・直売・レストラン	豚肉加工を中心とした農業公園・レストラン経営	三重県伊賀市	
91	加工・直売・レストラン	魚の加工・直売等の多角的経営を実践	山口県下関市	
92	加工・直売・レストラン	酪農の複合経営により地域雇用の創出	北海道紋別郡	P.24
93	加工・直売・レストラン	レストランや直売所の経営で地域に貢献	北海道夕張郡	
94	加工・直売・レストラン	食の安全・安心を目指したこだわりの酪農経営	北海道千歳市	
95	加工・直売・レストラン	女性の主体的取組による地域活性化	広島県東広島市	

取組の概要			取組主体の所在地	ページ
96	加工・直売・レストラン	手づくりハムの製造・販売	奈良県五條市	P.25
97	加工・直売・レストラン	直売所を中心とした複合拠点施設による地域振興	山形県鶴岡市	
98	加工・直売・レストラン	カンパチの加工及び販売	鹿児島県垂水市	
99	加工・契約取引	外食産業と連携した商品の開発・販売	和歌山県東牟婁郡	
100	加工・ネット販売	「伊勢本かぶせ茶」のブランド化による需要開拓	三重県四日市市	P.26
101	加工・ネット販売	加賀の伝統野菜「五郎島金時」を使った加工	石川県金沢市	
102	加工・ネット販売	加工事業の展開により地域活性化に貢献	宮崎県小林市	
103	加工・ネット販売	しそジュースの加工・販売により耕作放棄の防止に寄与	鹿児島県薩摩川内市	
104	加工・輸出	しその加工による海外を含めた販路開拓	熊本県合志市	P.27
105	加工・輸出・ネット販売	有機農産物の生産・加工・販売	石川県金沢市	
106	加工・直売・輸出	サツマイモの生産・加工・販売の一貫体制	熊本県上益城郡	
107	直売・ネット販売	消費者重視の都市近郊直売所で経営発展	新潟県新潟市	
108	直売・レストラン	食堂を併設した直売所で地産地消を推進	三重県多気郡	P.28
109	直売・レストラン	直売所を中心とした複合拠点施設による地域振興	愛知県大府市	
110	研究・成果利用	加工に適するキャベツ品種の育成	京都府京都市	
111	研究・成果利用	リコピンをより多く含む加工用トマト品種の開発・利用	愛知県名古屋市	
112	研究・成果利用	栗の新品種の生産・利用技術の確立	三重県津市ほか	P.29
113	研究・成果利用	高アントシアニン茶品種育成と利用食品開発	三重県津市ほか	

取組の概要			取組主体の所在地	ページ
114	加工	間伐材や林地残材を用いたペレット燃料の製造	長野県伊那市	P.30
115	加工	多収穫米を用いたバイオエタノールの製造	新潟県新潟市	
116	加工	家畜排せつ物を活用した成分調整ペレットたい肥の製造	熊本県合志市	
117	加工	木質ペレット用間伐材の収集・販売	新潟県上越市	
118	研究・成果利用	ヒトデを活用したたい肥の製造実証試験の実施	宮城県仙南地区	P.31
119	研究・成果利用	間伐材を原料とした飼料の製造・販売	宮城県	
120	直売	直売所への太陽光発電システムの設置	神奈川県藤沢市	P.32
121	研究・成果利用	小水力発電を核とした脱温暖化の地域社会形成に関する研究	岐阜県郡上市	
122	研究・成果利用	温泉熱を利用した温室の暖房システムの実証	新潟県十日町市	
123	研究・成果利用	地域資源(雪)を利用した特産品づくり	北海道沼田市	

(本資料は、関係者からの聞き取り、農林水産省ホームページからの引用により作成)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工 1 地場産野菜や果実を利用した加工品の製造

<取組主体>

中野市豊田農産物加工施設利用組合（長野県中野市）

<取組概要>

- ◆ 中山間地域の専業農家の女性を中心となって「中野市豊田農産物加工施設利用組合」を設立し、地場産農産物を利用した加工品を製造。
- ◆ 伝統的な味噌の仕込みの復活、特産のりんごを活用したアップルパイや地元産野菜を使ったおやきの製造など、こだわりのある商品を開発。
- ◆ 現在は法人化を視野に入れた女性農業グループとして、成長。



「紅玉」と「サンふじ」を用いたアップルパイ



【売上額】
約2,200万円(H20年度)

加工 2 生産出荷組合を設立し、冷凍野菜を周年供給

<取組主体>

農事組合法人^{わごうえん}和郷園(千葉県香取市)

<取組概要>

- ◆ 千葉県内11市町の農家92戸からなる生産出荷組合。
- ◆ 平成15年に冷凍加工センター(さあや'Sキッチン)を整備し、冷凍野菜(ほうれんそう、こまつな、ごぼう、えだまめ、ブロッコリー)を年間を通して提供。
- ◆ 平成16年にカットセンターを整備し、きんぴらごぼうセット、野菜炒めセット、煮物セット、中食・外食向けの業務用セット等を販売。



【売上額(冷凍加工品)】
約3億4千万円(H20年度)

加工 3 冷凍えだまめの加工施設の整備による生産・加工・販売の一体化

<取組主体>

中札内村農業協同組合^{なかさつないむら}(北海道中札内村)

<取組概要>

- ◆ えだまめに適した品種を導入し、産地内のリレー出荷により長期収穫(8月下旬~9月下旬)。収穫機の導入、トラックの荷台バラ積みでの出荷により、短時間で加工処理施設へ搬入。
- ◆ 平成17年から冷凍えだまめの契約取引を実施。液体窒素による急速冷凍装置を備えた加工処理施設を整備。
- ◆ 収穫から4時間以内に急速冷凍処理することにより高品質の冷凍えだまめを生産。
- ◆ 地域に100人程度の雇用を創出。



えだまめ収穫機



液体窒素で瞬間冷凍

【販売量】約1,800t(H20年)

加工 4 冷凍・カットほうれんそう加工施設の整備による生産・加工・販売の一本化

<取組主体>

農業生産法人(有)四位農園(宮崎県野尻町)

<取組概要>

- ◆ ほうれんそう、さといも、小松菜など大規模に生産。(ほうれんそうは延べ95ha栽培)
- ◆ 安全・安心な加工・業務用野菜の安定供給を図るため、平成18年度に洗浄、カット、冷凍等の機能を有する一次加工施設を整備。(食品安全マネジメントシステムの国際規格ISO22000を取得)



【契約取引量(ほうれんそう)】
約400t(H17年度)→約1,800t(H21年度)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工 5 漁協女性部による水産加工品の製造

<取組主体>

わたり

宮城県漁業協同組合亶理支所水産加工研究会(宮城県亶理町)

<取組概要>

- ◆ 漁協女性部22人のグループによる地元でとれる魚介類を使った商品開発に取り組み、平成11年からアカシタビラメのさつま揚げを製造・販売。
- ◆ さつまあげは小型のアカシタビラメを小骨ごとすり身にし、地場の野菜などとともに加工したもので、子供から高齢者まで幅広い人気。



加工 6 地域特産物のいちじくを活用したジャムの加工

<取組主体>

羽曳野市果樹振興いちじく部会KUREディース加工部
(大阪府羽曳野市)

<取組概要>

- ◆ 平成10年に、女性たち自らが地域特産物のいちじくの栽培技術を習得しようと、果樹振興会いちじく部会の下部組織「KUREディース」を設立。
- ◆ 加工場や冷凍設備を整備することで一年を通して加工できる体制を構築。いちじくを活用したジャムの本格的な加工販売を実施し、平成19年度と比べ、ジャムの売上は2倍、ジャム用イチジクの売上は3倍以上に増加。



加工 7 付加価値向上を目指した地域特産物の加工

<取組主体>

農事組合法人 農事組合法人グリーン日吉(京都府南丹市)

<取組概要>

- ◆ 糖尿病や高血圧などに予防効果のあるとされる「丹波黒大豆」や、地域特産物である「丹波大納言」「壬生菜」等の加工品を開発。(例:黒豆ぐらっせ、黒豆味噌、黒豆茶、壬生菜飴等)
- ◆ 平成20年度には、京都ノートルダム女子大学の知見を活用し、黒豆煮汁を使ったゼリー飲料「京じゅれ」を共同開発。
- ◆ 消費者との交流により、需要を捉えた加工品を年間2品目以上開発。



【販売額(加工品)】
1億3,000万円(H21年)

加工 8 高糖度のブランドみかんを使った加工

<取組主体>

株式会社 早和果樹園 (和歌山県有田市)

<取組概要>

- ◆ 昭和54年に地元農家7戸で早和共選を立ち上げ、平成12年に農業生産法人を設立。高糖度のブランドみかん「味一みかん」を用いたジュース・ジャム・ゼリー等の加工事業を展開。
- ◆ 平成21年度の加工施設整備を契機に、高級食材店に販売するなど専門的な販売戦力による更なる経営規模の拡大及び品質の高位平準化を実現。



【売上額(加工品)】
約1.5億円(H20年度)→約2億円(H21年度)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工

9 地元産そばの農家レストランによる提供とそば焼酎の限定販売

<取組主体>

うごまち おがち
羽後町そば栽培研究会（秋田県雄勝郡）

<取組概要>

- ◆ 平成10年に地元農家13名で「羽後町そば栽培研究会」を発足。平成21年には会員460名、収穫面積186haに拡大。
- ◆ 会員農家から研究会が全面委託を受け、播種から製粉までを実施。
- ◆ 製粉したそば粉は、研究会会員農家が開業した農家レストランで提供するほか、県内外に出荷。
- ◆ 平成19年には、町内産のそば・米こうじ・水を原料としたそば焼酎「羽後の郷」の製造を酒造会社に委託し、町内の酒店で限定販売。



加工

10 自家生産コシヒカリを用いた米粉パンやお米麵の製造・販売

<取組主体>

株式会社アジチファーム（福井県福井市）

<取組概要>

- ◆ (株)アジチファームでは、米・小麦などの穀類、果樹、野菜の生産のほか、農作業受託、精米・製粉事業、米粉パン・米粉めん、稲発酵粗飼料の製造販売を実施。
- ◆ 米粉パンについては、直売所での販売や学校給食への供給のほか、米粉パン作りを体験できる「米粉パン倶楽部」の開設など、幅広い事業を展開。
(米粉パンの製法特許を出願中)



加工

11 地域資源である「ハトムギ」を有効活用した「はとむぎ茶」の開発

<取組主体>

JA氷見市（富山県氷見市）

<取組概要>

- ◆ 転作作物として栽培されていたハトムギに着目し、平成18年にペットボトル入り「氷見はとむぎ茶」を開発。
- ◆ JA職員が東京や大阪などに出向き、PR活動を実施。北陸3県のコンビニでも販売され、好調な売上。
- ◆ 大学関係者と連携し、新商品の開発にも取り組む。

【販売量】

約13万本(H18年)→約200万本(H21年)

【ハトムギ作付け面積】

約15ha(H18年)→約92ha(H21年)



加工

12 手作り「ごはんば〜が」で地産地消と米の消費拡大

<取組主体>

JA根上加工部会（石川県能美市）

<取組概要>

- ◆ 「孫がご飯を食べない」との生産者の相談を契機に、ハンバーガーのように平たくまとめたご飯を焼いて、惣菜(きんぴら、豚肉の甘煮など)を挟んだ「ごはんば〜が」を開発し、平成17年から販売。(平成19年には「ごはんば〜が」を商標登録)
- ◆ 地域特産の「加賀丸いも」を使った新メニューの開発だけでなく、全国への冷凍発送、県庁売店での販売など販路開拓も積極的に実施。

【販売量】

約2千個/月(H17年)

→約5千8百個/月(H20年5月)



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工

13 ゆずを用いた特産品づくりで地域活性化

<取組主体>

かみのほ特産品加工組合（岐阜県関市）

<取組概要>

- ◆ 地域で古くから庭木として身近にあったゆずの特産化を目指し、昭和60年頃から女性農家グループで特産品づくりを開始。
- ◆ 平成15年には、女性農家で組織する「かみのほ特産品加工組合」を設立。ゆずこしょうなどの加工品を製造。
- ◆ ゆず関連商品の開発・加工（外部委託）・販売を行う「(株)ハートランドかみのほ」などと連携し、ゆずの生産拡大やジュース等付加価値向上の取組。

【ゆず生産量】

【ゆず加工品売上額※】

約3t(H12年)→約20t(H20年) 約200万円(H20年)

※(株)ハートランドかみのほの全体売上額 美濃ゆずこしょう



加工

14 にんにくで中山間地域の活性化

<取組主体>

美濃山県^{やまがた}にんにく振興協議会（岐阜県山県市）

<取組概要>

- ◆ 中山間地域の活性化、特産品づくりのため、平成20年に地元の生産者、生産者団体などにより、「美濃山県にんにく振興協議会」を設立し、にんにくの生産・加工の取組を開始。
- ◆ 山県産にんにくに「元気玉」とブランド名を付けPRを実施。「元気玉」をソースに使用した元気玉バーガーが大手コンビニで販売。

【生産量】

約0.5t(H20年)→約10t(H21年)



にんにくの収穫

加工

15 チーズづくりを通じた地域活動の実施

<取組主体>

NPO法人 八雲ハンドメイドの会（北海道二世郡）

<取組概要>

- ◆ 平成4年に女性酪農家14名で「八雲ハンドメイドの会」を設立し、チーズづくりを開始。平成16年に活動の社会的発展と充実のために任意団体からNPO法人化。
- ◆ 2ヶ月以上熟成させたゴーダチーズなどの製造・販売だけでなく、年に一度、会員自らがチーズ料理を披露するイベントを開催する地域活動を実施。

【売上額】

約90万円(H17年度)

→約140万円(H21年度)



加工

16 自家製の小麦や卵など用いたお菓子の製造

<取組主体>

水上農園(クッキー工房「つくしんぼう」)（北海道夕張郡）

<取組概要>

- ◆ 小麦や長ネギなどの生産のほか、採卵のための養鶏を実施。平成14年にクッキー工房「つくしんぼう」を開設し、自家製農畜産物を原料とした菓子類の製造・販売を開始。（加工品：クッキー、大福、シフォンケーキ、アップルパイなど）
- ◆ 取組当初は2箇所のみでの販売であったが、その後の販路拡大により現在は10箇所以上で販売を実施。

【売上額(菓子類)】

約20万円(H14年度(半年間))

→約550万円(H21年度)



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工

17 集落の全戸参加によるそばづくり

<取組主体>

高路^{こうろ}むらづくり推進協議会（鳥取県鳥取市）

<取組概要>

- ◆ 高路集落では、「まちとむらとの交流」で農村を活性化するため、集落内の全39戸が参加して「高路むらづくり推進協議会」を平成6年に設立。
- ◆ 集落では昔から焼き畑によるそば栽培が行われていたことから、協議会ではそば栽培やそばうち体験ほか、イベント等での農産物の販売、そば粉や豆腐などの加工を実施。
- ◆ 小学校の児童を対象にしたそば栽培、みそづくり体験の実施など、地域の食農教育にも貢献。

【作付面積(そば)】

2.4ha(H18年)→2.8ha(H20年)



そばの播種

加工

18 絹製品の開発などによる養蚕文化の継承

<取組主体>

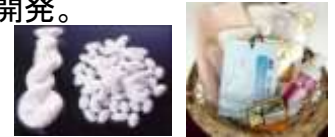
甘楽^{かんらく}富岡蚕桑研究会（群馬県富岡市）

<取組概要>

- ◆ 甘楽富岡蚕桑研究会は、養蚕や桑栽培に関する技術や経営を研究することを目的に昭和43年に発足した農家組織。伝統ある養蚕・製糸を存続させたいとの声の高まりを受け、伝統ある組織として、地域の伝統産業である養蚕の維持、発展に向けた活動を展開。
- ◆ 平成8年、新たな絹需要の開拓等を目的として、群馬オリジナル蚕品種「ぐんま200」を原料に、手袋、靴下、洗顔タオルなどのオリジナル商品を加工業者等と連携して開発。

【売上額(絹製品)】

約30万円(H14年)→約90万円(H18年)



加工

19 女性グループが手作り漬物を秋田から全国へ

<取組主体>

浅舞^{あさまい}婦人漬物研究会（秋田県横手市）

<取組概要>

- ◆ 昭和46年、規格外の野菜の有効利用を図るため、農協婦人部、地域婦人会の有志により研究会を立ち上げ、漬物作りを開始。昭和57年に「秋田の田舎漬」として商標登録。
- ◆ 塩分、品質、規格の統一を図るため、下漬出荷組合を設立し、講習会を開催するなど35年間漬物の味を守る。
- ◆ 地元産にこだわり、出荷量の少ない品種には苗の無償提供を実施。



【売上額】

約2億2千万円(H21年)

加工

20 遊休農地を活用した健康食品づくり

<取組主体>

健康^{よりい}活性農場（埼玉県寄居町）

<取組概要>

- ◆ 平成19年に「寄居町エキナセア生産組合」を設立し、遊休桑園を活用して、免疫力を高める効果があるとされているキク科の多年草「エキナセア」を栽培。（平成20年に「健康活性農場」に名称変更）
- ◆ 栽培だけでなく、加工業者等と協力して2年間の研究を重ね、エキナセア茶やジャム、クッキー等の加工品を開発。



エキナセアの花



エキナセア茶



エキナセアクッキー

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工

21 地場産夏みかん、たけのこを活用した加工品の製造、販売

<取組主体>

有限会社いずみの里（大阪府和泉市）

<取組概要>

- ◆ 女性農家が出資して有限会社「いずみの里」を設立（平成13年）し、地域特産の夏みかんのマーマレード、たけのこ煮、みそ、佃煮、米粉パン等を販売。
- ◆ 加工品の原材料のほとんどを社員が栽培し、市内各地の朝市を中心に販売、大手量販店とも契約し、販路を拡大。
- ◆ 平成20年7月に加工場と直売所をオープンし、常設販売を開始。



【売上額】

約1,300万円(H15年)→約6,800万円(H21年)

加工

22 地元菓子製造業者との連携による枝豆の生産と加工

<取組主体>

株式会社 ^{あたご うぶすな} 愛宕産土農場（宮城県栗原市）

<取組概要>

- ◆ 平成12年、効率的な営農・転作の団地化推進を目指し、前身である「愛宕生産組合」を設立。平成19年に、地区の集落営農組織として、現在の株式会社^{あたご うぶすな}に法人化。大豆、白菜、ほうれんそう等を栽培（H21年：17ha）。
- ◆ 平成21年から、地元の菓子製造業者に菓子原料用の枝豆を直接販売するべく、枝豆の大規模栽培を開始。（19年20a→21年600a）
- ◆ 新鮮で、色、香りの優れた枝豆を供給するため、一次加工（ゆで、莢剥き等）を実施。



【売上額（枝豆）】

約12万円(H19年度)→約650万円(H21年度)

加工

23 健康果実「アドベリー」による6次産業の創造

<取組主体>

アドベリー生産協議会（滋賀県高島市）

<取組概要>

- ◆ 地域の農業者、加工業者、流通業者等で「アドベリー生産協議会」を立ち上げ、ボイズンベリー（通称「アドベリー」）の生産・加工・流通に取り組む。
- ◆ 日本で始めてアドベリーを産地化し、栽培するため、産・官・学に加え外国からの栽培指導・加工指導を受けるなどの交流を実施。
- ◆ アドベリーを用いたジャムやチョコレート、ケーキなどを開発し販売。



【生産量（アドベリー）】

約1t(H17年)→約4.5t(H20年)

加工

24 遊休資源「桑」を生かした農業の6次産業化

<取組主体>

農業生産法人(有)桜江町桑茶生産組合（島根県江津市）

<取組概要>

- ◆ 眠っていた資源「桑」を活用して、桑の生産から、桑茶、サプリメント、青汁などの加工・販売までを一貫して行う「農業の6次産業化」を実践。
- ◆ 全国初の有機JAS認証取得、大学と連携し、関連特許を出願するなど、他産地との差別化を図る。
- ◆ U・ターン者、高齢者の雇用創出に貢献。



【生産量（桑の葉）】

約12t(H12年)→約120t(H21年)

【売上額】

約1千万円(H12年)→約1億4千万円(H21年)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

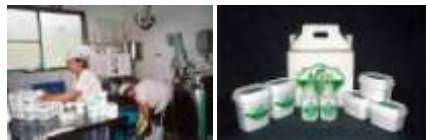
加工 25 酪農業を営む傍らヨーグルトの商品化

<取組主体>

(有)陽子の手作りヨーグルト(兵庫県小野市)

<取組概要>

- ◆ ヨーグルトの商品化に向け先進地研修、資金の調達、工房の建設等、試行錯誤しながら生産販売活動を開始。
- ◆ 生乳100%、おいしさ200%”をキャッチフレーズに、独自の事業展開がマスコミ等の注目を受ける。
- ◆ 加工・販売方法や交流活動が女性起業に先駆的存在と評価され、個人の商品開発や、女性農業者の起業に大きく刺激を与えている。



【売上額】2,700万円(H17年度)

加工 26 加工業者との連携による新たな加工品の開発

<取組主体>

山口県漁協、水産加工会社(山口県)

<取組概要>

- ◆ 漁協と水産加工業者が有限責任事業組合(LLP)を設立し、規格外の大型ハモに水産加工業者が持つ高度なふぐ加工技術を導入して新たな加工品を開発・販売。
- ◆ 年間を通じて効率的な生産(夏期:ハモ、冬期:フグ)が可能となり所得の向上を実現。



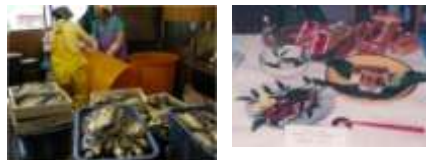
加工 27 漁村女性のパワーで「へしこの会社」を設立

<取組主体>

(有)なぎさ会(福井県美浜町)

<取組概要>

- ◆ 女性グループによる地元魚利用の検討が進められ、漁家の主婦で構成される会社を設立。へしこ(めか漬け)の研究開発に取り組む。
- ◆ 一層美味しく食べるための研究を重ねることで、口コミで全国にまで知られ、現在では町の特産品として販売されるとともに、美浜町が「へしこ」の町として商標登録される。
- ◆ へしこの特産品化と町の商標登録で新たな活動メンバーが誕生し、また、体験学習や食育の推進により地域経済が活性化。



加工 28 「生産」から「流通・販売」までつなぐ事業の展開

<取組主体>

有限責任事業組合ベジポート(千葉県旭市)

<取組概要>

- ◆ 農業生産法人(有)テンアップファームと株式会社ニチレイフーズの共同出資により、平成19年に設立された有限責任事業組合(LLP)。
- ◆ 生産現場と消費者双方の顔が見える野菜の「生産」から「加工」、さらに「流通・販売」まで統合した第6次産業としての事業を推進。
- ◆ にんじんやトマト、ほうれんそうなどの野菜について、契約先のニーズに合わせた規格・様態で出荷を実施しているほか、にんじんジュースなどの加工品を製造。



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

直売 29 立地条件を活かした完熟マンゴー栽培・販売

<取組主体>

石垣島果樹生産出荷組合（沖縄県石垣市）

<取組概要>

- ◆ 害虫の根絶による本土出荷の解禁を契機とし、外国産に打ち勝つため徹底した品質管理により高品質な「ポトリ果マンゴー」を生産し安定的な経営を行っている。
- ◆ 補助事業を受けずに農地開墾及びハウスを整備。農協系統出荷でなく、自ら販路を開拓し、直接販売を行っている。
- ◆ 農業用資材についても、自発的に結成した同業者グループで共同購入しコスト削減を図っている。
- ◆ 収穫期には10～20名程度の雇用を創出。



直売 30 巡回集荷や直売所のネットワーク化による地産地消の推進

<取組主体>

奥出雲産直振興推進協議会（島根県雲南市、飯南町、奥出雲町）

<取組概要>

- ◆ 消費人口の少ない地域で、2か所の拠点直売所と地域の16の直売所をネットワーク化。（中山間地域において、高齢者でも出荷できるよう、40か所の集荷場を設け、保冷車による巡回集荷を実施。）
- ◆ 中山間地域では消費に限界があるため、松江市内の量販店（インショップ）で販売を行うほか、関西地域の量販店で定期的にフェアを実施。



直売 31 直売所開設による消費者への直接販売

<取組主体>

(株)よかところ（長崎県西海市）

<取組概要>

- ◆ 地元の農家15戸で構成される生産者団体が直売所「よかところ」を開設し、消費者への直接販売を実施。
(H18年に任意の団体から法人化)
- ◆ 農家の経営感覚を向上させるため、「生産者による価格設定」、「生産者名の表示」等の販売ルールを設定。
- ◆ 売上金は全て出荷農家内の女性名義の口座に振り込むことで、女性の意欲向上と経済的自立を推進。



【売上額】
約2億円(H20年度)

直売 32 米の産直による独自ブランドの確立

<取組主体>

南阿蘇村おあしす米生産組合（熊本県南阿蘇村）

<取組概要>

- ◆ 「顔の見えるおつきあい」をモットーに、無農薬米の予約制・直接配送販売で独自ブランドを築く。
- ◆ 産地直送のノウハウを活用し、オリジナル地酒「一心行」、規格外のホームランメロン「場外ホームランメロン」も独自ブランドとして販売。



【売上額(米)】
約5,400万円(H17年度)

おあしす米

顔の見える販売

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

直売

33 観光農園でのいちごの直接販売

<取組主体>

古賀ストロベリー生産組合（福岡県古賀市）

<取組概要>

- ◆ ばらの施設栽培等を行っていた農家3戸が、ばらの価格が低迷する中、経営の安定を図るために、平成17年にいちごの観光農園を併設し、いちごの直接販売等を実施。
- ◆ 農園では、高設栽培を行っているため、腰を曲げずに収穫でき、来園者、特に高齢者やこどもに好評を得ている。（平成20年の来園者は約1,000名）



いちごハウス

【売上額(観光農園)】
約400万円(H20年)

直売

34 島内初の有人直売所で地産地消を推進

<取組主体>

五島こだわろ会（長崎県五島市）

<取組概要>

- ◆ 有人の直売所を設置しよう、という認定農業者の働きかけに農産物加工グループや漁業者も賛同し、平成16年に会を結成。
- ◆ 「生産者の顔が見える新鮮な農水産物の販売」をモットーに、小売りだけでなく、給食センターなど大口需要者とも連携。
- ◆ それまで自家用であったものも販売できるようになったことで所得の向上が図られたほか、生産意欲も向上。



【売上額】
約4,300万円(H21年)

直売

35 観光りんご園で定価での直接販売、オーナー制の導入

<取組主体>

古瀬地区観光りんご園（佐賀県唐津市）

<取組概要>

- ◆ 農家5戸が展開する観光りんご園では、来園者が収穫したりんごを700円/kgで買い取ってもらっており、20年以上前の開園以来、買い取り価格を維持。
- ◆ また、りんごの樹のオーナー制も導入。オーナーは収穫期に合わせて来園し、直接収穫を体験することができ、グリーンツーリズムの草分け的取組を実施。
- ◆ 西南暖地でのりんご栽培は少ないことから、その収穫体験ができる本農園は、都市部消費者から好評を得ている。



袋掛けが終わったりんご園

直売

36 直売による都市近郊農業の活性化

<取組主体>

(株)アグリプラス（千葉県柏市）

<取組概要>

- ◆ 農家15名が設立した有限会社「アグリプラス」(その後、株式会社化)が母体となり、直売所「かしわで」を開設。
- ◆ 地場で収穫された新鮮な農産物を求め、県内はもとより、東京都等の遠方からも多くの消費者(年間約50万人)が来店。
- ◆ 大都市周辺での大型の直売所の開設により、地域の高齢・小規模農家に所得機会を創出。



【売上額】
約9.3億円(H20年)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

直売 37 安全・安心・新鮮をモットーとした直売所

<取組主体>

JA小松市直売所「JAめぐり」(JAめぐり産直部会)(石川県小松市)

<取組概要>

- ◆ 平成14年に、農産物だけでなく、生産資材の販売や営農相談対応も行う直売所「JAめぐり」を開設。(年間約40万人が来店)
- ◆ 平成19年から、生産者が売上データをメールや電話で確認できる産直システムを導入することにより、品切れの際の迅速な商品補充への対応など、販売体制を充実。

【売上額】

約9千万円(H14年度)→約4億2千万円(H20年度)

【産直部会員数】

約30名(H14年度)→約400名(H20年度)



直売 38 ホタテガイの直接販売

<取組主体>

野辺地町漁業協同組合(青森県野辺地町)

<取組概要>

- ◆ 陸奥湾で生産されたホタテガイを、消費者に宅配便などで直接販売。トレーサビリティシステムも導入。
- ◆ 毎週土曜日に朝市を開催しているほか、近隣の観光ホテルにおいて宿泊客を対象としたホタテガイの浜焼き体験会を開催し、その場で販売予約を取り付けるなどの販売促進を実施。

【売上額】

520万円(H20年)



直売 39 地域住民の声から生まれた直売所

<取組主体>

緑集落農業協議会(愛媛県愛南町)

<取組概要>

- ◆ 地域農家・住民の直売所開設への関心が高いことを受け、愛南町緑地区の担い手農家で組織する「緑集落農業協同組合」は、平成13年に直売所「緑新鮮市」を開設。
- ◆ 地区農家約100名を会員とする直売所には、年間約20万人が来場。直売所を通じた農家女性、高齢者の生き甲斐づくりや所得向上、生産者と消費者との地域交流の活性化に寄与。

【売上額】

約7千万円(H14年度)
→約2億円(H17年度)



直売 (植物工場)

40 植物工場による野菜生産と直接販売

<取組主体>

(株)みらい(千葉県松戸市)

<取組概要>

- ◆ マンションの1階を改装して、植物工場とそこでとれた野菜を販売する「グリーンフレーバー五香店」を開設。
- ◆ 植物工場は完全人工光型で、多段階式の水耕栽培で、レタスやグリーンリーフ等を1日300株生産。
- ◆ 植物工場で生産された野菜をそのまま店頭で販売していることから消費者ニーズを踏まえた「洗わずに食べられる野菜」等を供給している。

【販売額】約700万円



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

レストラン
(植物工場)

41 植物工場による安全性の高い野菜の生産・販売

<取組主体>

(株)フェアリーエンジェル(福井県美浜町)

<取組概要>

- ◆ 当初は京都のレストランの地下に植物工場を作り、地産地消を目指した。その後、福井県に大型施設を導入し、レタス等の野菜を栽培。
- ◆ 生産される野菜は、農薬を使用せず、洗わずに食べられることから、「てんしのやさい」として、自社のレストランでの使用や一般小売り向けや加工・業務用に販売。



【販売額】約3億円

輸出

42 ももを台湾へ輸出

<取組主体>

JAふえふき(山梨県笛吹市)

<取組概要>

- ◆ 光センサー選果により甘く高品質なものの出荷が可能。台湾では贈答用等の高価格帯商品として販売。
- ◆ 病虫害のない確実な選果が絶対条件であるため、出荷ピーク時には専属選果補助員を配置。
- ◆ 高品質で安定的な生産量が確保され、輸出量の増加のみならず国内向け販路拡大にも効果。



【輸出量】

約130t(H20年)

光センサー選果機

検査・選果作業

輸出

43 地域条件を活かした観葉植物の輸出

<取組主体>

JA東京島しょ(東京都八丈町)

<取組概要>

- ◆ オランダでフェニックス(鉢物)の取引価格が国内の5~10倍であることをきっかけに平成3年から欧州に輸出を開始。
- ◆ 八丈島はフェニックスを生産できる北限地であるため、樹型がスマートでコンパクトと特徴的であることから、ホテル等の装飾用として評価が高い。
- ◆ 輸出当初450鉢であった輸出量が現在では5,000鉢前後に増加させ、安定した経営を展開。



輸出

44 いちごを東南アジア地域へ輸出

<取組主体>

香川県農業協同組合 三木集荷場(香川県木田郡)

<取組概要>

- ◆ 首都圏で贈答用として評価が高かった三木町地域の「女峰」を、贈答用高級果実として台湾とマレーシアへ輸出。
- ◆ 移動中の傷み防止のための専用容器の開発や包装作業の省力化を推進。
- ◆ 輸出は緒についたばかりであり、現在のところ大幅な収益増には繋がっていないが、販売ルート拡大により生産者の生産意欲が向上。



パック詰めされたいちごと輸送用梱包

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

輸出

45 長いもを台湾、アメリカへ輸出

<取組主体>

JA帯広かわにし（北海道帯広市）

<取組概要>

- ◆ 地域7農協で連携して産地を形成し、年間安定供給体制を構築。
- ◆ 輸出専用段ボールを開発し、国内市場から仕入れて輸出する業者との差別化を実践。
- ◆ HACCP認証を取得し、一層の「安全・安心」を訴求。
- ◆ 輸出による大口需要先を確保したことで、販売の安定化が図られ、作付面積・生産量ともに増加。



【輸出額】

約4.4億円(H21年度)

輸出

47 レタスを台湾へ輸出

<取組主体>

長野県南佐久郡川上村（長野県南佐久郡）

<取組概要>

- ◆ 台湾で出回っている米国産の固いものと比較して柔らかく甘みのある川上産レタスの特徴を物産展でアピール。
- ◆ 川上村のオリジナルのラップを作成し、台湾で「川上ブランド」をPR。
- ◆ 輸出にあたって、テスト輸出を行い着荷の状態の確認、ニーズの把握等を実施するとともに、購入者がレタスに触ることによる傷みを軽減するため、1玉ごとにラッピング。



レタス販売の様子

【輸出額】

約1,200万円(H21年度)

輸出

46 高級ぶどうジュース等の輸出促進による産地の活性化

<取組主体>

横手市大沢ぶどう生産農家協議会（秋田県横手市）

<取組概要>

- ◆ 平成16年、香港のバイヤーを横手市に招へいたところ、バイヤーが大沢地区のぶどう畑を高く評価し、ジュース加工の提案を受けたことを契機に、高級ぶどうジュースを開発し輸出を開始。
- ◆ (社)横手市観光協会と連携し、プロモーション活動を毎年展開。
- ◆ 海外で高品質が評価され、地元スーパーなどからの引き合いが増加。現地の要望もあり、ジャムの加工・輸出にも取り組んでいる。



海外での販売促進活動



【輸出量】

6,000本(H19)→11,000本(H21)

輸出

48 ブランドりんごの輸出による生産意欲の向上と販路拡大

<取組主体>

朝日町果樹組合連絡会議（山形県西村山郡）

<取組概要>

- ◆ 昭和63年に朝日町の7つのりんご生産組合で「朝日町果樹組合連絡会議」を設立。平成16年に販路開拓のために輸出を開始し、現在は台湾とタイに輸出を実施。
- ◆ 密入りりんごでブランド化を図り、選果を厳選し高級百貨店での販売を中心に展開。



輸出商品展示例



海外での販売促進活動

【輸出量】

約14t(H16年)→約21t(H21年)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

契約取引

49 観葉植物の大規模生産・直接販売により、地域活性化に貢献

<取組主体>

有限会社 三浦園芸（愛知県岡崎市）

<取組概要>

- ◆ 観葉植物を生産し、市場を通さない直接契約・直接配送方式で、小売店や量販店、ホームセンター等に販売。取引先、自社のアンテナショップから直接消費者ニーズを把握するように努め、「売れるものをつくる」ビジネスを展開。
- ◆ 平成7年から国内農家に委託生産することでリレー栽培を開始し平成13年から海外でも委託生産を開始し、経営規模を拡大。
- ◆ 就労機会の少ない岡崎市東部の中山間地で、パートを含め約70名の従業員を雇用し、地域活性化に大きく貢献。



【売上額等】約6.2億円、200万鉢(H20年)

契約取引

50 加工・業務用キャベツの契約取引といった新たな流通を展開

<取組主体>

鹿追町農業協同組合（北海道鹿追町）

<取組概要>

- ◆ 平成18年より、冷涼な気候を生かして加工・業務用キャベツの大規模生産を実施。
- ◆ 出荷規格を簡素化(L→M~2L)するとともに、機械化一貫体系の導入による労働力の軽減、大型プラスチックコンテナを活用した輸送コストの低減に取り組む。
- ◆ 食品製造業者から加工・業務用のニーズを把握し、書面による契約取引を実施。



【契約取引量】約800トン(H21年)

契約取引

51 外部の力を投入し、経営力・魚の価値を高める

<取組主体>

漁業会社A、民間会社N（静岡県熱海市）

<取組概要>

- ◆ 漁業会社Aは、民間会社Nと協力して漁網の改良を実施。
- ◆ せりでAが設定した最低価格に達しない場合はAが漁業者から全量を買取り、その漁獲物は、A自ら規格を揃えて箱詰めし、Nが開拓した販路で販売。魚価が上がり、収益が向上。



契約取引

52 農協が生産者から全量買取りした上で実需者と契約取引を展開

<取組主体>

全農いばらき県西VFS(茨城県結城郡八千代町)

<取組概要>

- ◆ 実需者のニーズに合わせて産地を育成することを特徴とした、青果物直販事業(VF事業)をH8年度から展開。
- ◆ 市場委託販売から農協が生産者から全量買取りした上で、実需者と契約取引を実践。生産者側が価格交渉権を確保。
- ◆ 取引先は、100社以上、レタス、はくさい、キャベツなど約60品目を扱う。



【契約販売額】約126億円(H20年度)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

契約取引

53 はくさいの長期契約栽培による野菜経営の安定・向上

<取組主体>

加美よつば農業協同組合加工野菜部会（宮城県加美郡加美町）

<取組概要>

- ◆ 加美よつば農業協同組合は、はくさいの加工・業務用需要に着目し、平成11年に「加工野菜生産部会」を設立。はくさいの長期契約栽培の実施により、部会生産者の経営安定、向上を推進。
- ◆ 加工・業務用に適した品種選定、生産技術の高位平準化を図るため、実需者、種苗会社、県農業改良普及センター等と連携し、部会生産者への技術指導等の支援を実施。
- ◆ 平成21年からは、新たに加工用トマトの契約栽培を開始し、約175tもの契約取引を実施。

【出荷量(加工・業務用向けはくさい)】
約80t(H14年)→約456t(H21年)



産地リレー

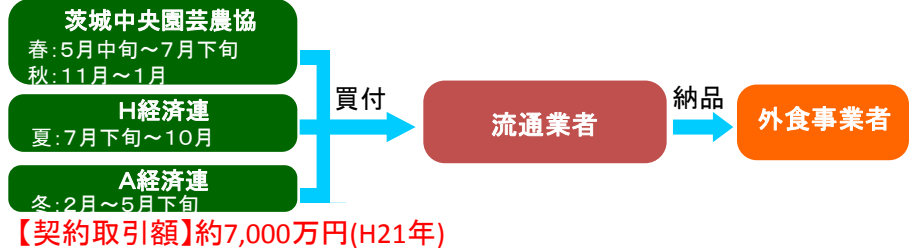
54 中間事業者を介した産地リレーの取組

<取組主体>

茨城中央園芸農協（茨城県茨城町）

<取組概要>

- ◆ 加工・業務用に適した冬キャベツを夏でも出荷できるよう周年供給を図る産地リレー方式を導入し、流通業者との契約取引を実践。流通業者の中間的調整機能を活用。
- ◆ 契約取引により安定した農業経営を実践。



産地リレー

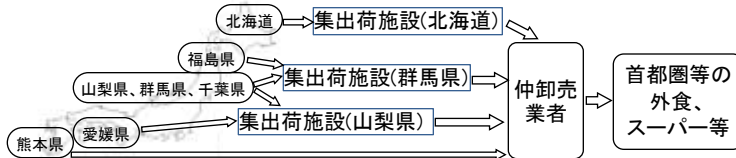
55 複数の農業生産法人の連携による産地間リレー出荷の展開

<取組主体>

日本ブランド農業事業協同組合(東京都大田区)

<取組概要>

- ◆ 複数の農業生産法人が仲卸業者への周年安定供給をするために、平成15年に事業協同組合を設立。
- ◆ トマトは群馬県、千葉県、山梨県、たまねぎは北海道、千葉県、熊本県、福島県、群馬県、山梨県、ねぎは群馬県、山梨県、レタスは山梨県、群馬県、千葉県から産地リレーにより契約出荷を実施。



【販売量】(トマト)220t (たまねぎ)2,438t (ねぎ)545t (レタス)2,393t(H20年度)

産地リレー

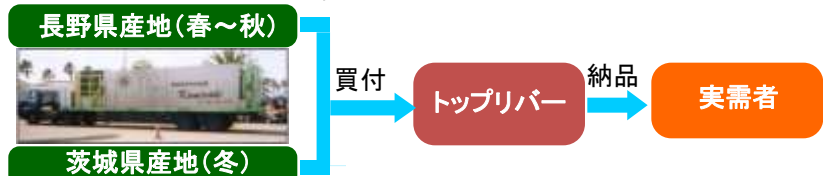
56 生産者が流通業へ進出して産地リレーを実践

<取組主体>

農業生産法人(有)トッピーバー（長野県御代田町）

<取組概要>

- ◆ 実需者への周年供給を図るため、新技術の移動式真空予冷装置を活用した産地間連携を実践。
- ◆ レタス、キャベツ、はくさいについて、長野県(春～秋)と茨城県(冬)で産地リレーを図り、周年供給体制を構築。
- ◆ 実需者との安定した契約取引のほか、高付加価値化を実施。



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

レストラン 57 中山間地域で頑張る農家レストラン・民宿

<取組主体>

農家レストラン・農家民宿「きのこの里」(徳島県吉野川市)

<取組概要>

- ◆ 農家レストラン・農家民宿「きのこの里」では、玄米、野菜、手作り豆腐やこんにやくを中心とした健康に良い自然食メニューを提供。
- ◆ 自家製の干しいたけと昆布で丁寧だしをとり、ゆっくり煮込むことで野菜のうまみを出し、薄味でも驚くほど美味しいとりピーターも多い。



レストラン 58 伝統野菜をつかった農家レストラン

<取組主体>

きよすみ
清澄の里 粟(株式会社粟) (奈良県奈良市)

<取組概要>

- ◆ 平成14年に農家レストランを開始し、伝統野菜である大和野菜を利用したメニューを開発・提供。
- ◆ 奈良の伝統的な粟である「むこだまし」の復活と地元の銘菓づくりのため、「むこだまし」を用いた和菓子の開発・販売。



【売上額】

800万円(H14年度)→1,500万円(H21年度)

レストラン 59 地場水産物をつかった「漁港めし」の提供

<取組主体>

蒲入水産有限会社 (京都府伊根町)

<取組概要>

- ◆ 漁港の全組合員62名が出資して設立した蒲入水産有限会社は、主に定置網漁と加工事業を展開。平成15年4月から地元でとれた海の幸を中心とした料理「漁港めし」を漁港内で提供。
- ◆ 平成19年度から漁船でのクルージングを開始するなど、漁港を観光資源としても活用し、観光客は近年大きく増加。

【販売額(漁港めし)】

75万円(H16年度)→450万円(H21年度)

【観光客数】

1,000名(H18年度)→2,600名(H21年度)



レストラン 60 めん羊の飼育及びレストランの経営

<取組主体>

(有)ヒルトップファーム(北海道せたな町)

<取組概要>

- ◆ 土木工事業の傍ら、町が奨励していた羊の飼育に参入。平成13年に鉄道の廃客車を改装し、生ラム肉を安価で提供できるようレストランの営業を開始。(H16年に独立採算を目指し別法人化)
- ◆ 地元豆腐店から出るオカラを給餌する等、めん羊にも良くエコロジ的な飼育方法を確立。また、遊休農地を借り上げ、牧草地として利用。

【売上額】

約2,400万円(H21年)



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

レストラン 61 肉用牛部門を核とした6次産業化の展開

<取組主体>

鷺頭牧場（大分県玖珠郡）

<取組概要>

- ◆ 鷺頭牧場では、「労働配分と危険分散」を理念とし、花卉や水稻の生産にも取り組むとともに、肉用牛部門を核として、生産から販売まで一貫した農業の6次産業化を目指し、平成15年から農家レストランを営業。
- ◆ 水稻部門から出る稲わらは肉用牛部門で、生産される特別栽培米の2割は農家レストラン部門で利用。
- ◆ 小中学校や農業高校、農業大学校など学生の農泊・職業体験の受け入れを行い、担い手の育成にも貢献。農家レストランは消費者と直接ふれあいながら情報発信できる場として位置づけ、バター作りなどのイベントも企画。

【売上額(レストラン)】約3,800万円(H19年)

レストラン 62 自ら生産した農産物を利用したおふくろの味を提供

<取組主体>

農家レストラン「はなやか亭」（宮城県遠田郡）

<取組概要>

- ◆ 平成13年、『地産地消』、『地元食材のPR』、『食の提案』をコンセプトとした農家レストラン「はなやか亭」を直売施設「花野果市場」内に開設。
- ◆ 自家製又は「花野果市場」で調達した原材料を用い、味噌おにぎり、すいとん、ずんだもち等の「農家のおふくろの味」を提供。
- ◆ 利用者アンケート調査や首都圏ホテルの料理長からのアドバイスを参考に、商品開発を行い、毎日30～40種類の料理を提供。

【来客数】
約1万5千名以上

【雇用者数】
パートを含め従業員9名



レストラン 63 休耕田を有効活用した地域特産品づくり

<取組主体>

北川 京子氏（三重県松阪市）

<取組概要>

- ◆ 山間地の休耕田を活用し、わき水を利用したクレソン栽培を実施。ホテルや道の駅、直売所などに出荷するほか、市内のショッピングセンター内にアンテナショップを出店し、地域の新たな特産品としてPR。
- ◆ 平成20年には、クレソンを主にした創作料理レストラン「はげの風」をオープンし、クレソンを使ってクレソン鍋、山菜弁当、ケーキなどバラエティーに富んだメニューを提供。



クレソン畑



クレソン鍋

【生産量】
1,600kg(H21年)

レストラン 64 「棚田のそば」を用いたそば屋の展開

<取組主体>

紅そば亭(境地区農業生産者組合)（岡山県美咲町）

<取組概要>

- ◆ 平成12年に境地区農業生産者組合を結成、平成14年に遊休農地化が懸念される棚田約40aに赤そばを植えたところ、写真家や多くの見学者が地区を訪れたため、在来種のそば(白そば)も植栽し、平成15年にそば屋「紅そば亭」の運営を開始。
- ◆ 地区内の野菜、山菜などの食材を用いたメニューを提案することで、地域農産物の需要拡大にも寄与。

【売上額】
約900万円(H17年)→約1,300万円(H21年)

【生産量(そば)】
約2t(H17年)→約4t(H21年)



赤そば畑の風景

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

ネット販売

65 少量品種や規格外の魚をネットで販売

<取組主体>

相馬双葉漁協（福島県）

<取組概要>

- ◆ 水揚げされたなかで、少量品種や規格外の魚をまとめて「理由（わけ）あり魚セット」として手頃な値段でインターネットにより販売。
- ◆ 平成19年からは、飲食店情報を提供する民間企業と提携し、インターネットを活用して漁獲された水産物を飲食店に販売。



加工・直売

66 地元の魚を利用した加工品の製造・販売

<取組主体>

漁村女性グループめばる（大分県佐伯市）

<取組概要>

- ◆ 漁師の妻を中心としたグループが、平成16年から、地元で水揚げされるエソ、アジ、シイラなどを原料として、郷土料理の「ごまだし」（焼いた魚、ゴマ、しょうゆを合わせたペースト状の調味料）、干物等を製造、販売。
- ◆ 佐伯市内、大分市内などの朝市、イベント等において、製造した加工品を販売。

【売上額】

900万円(H20年)



加工・直売

67 加工グループの組織化による多様な加工品等の直売

<取組主体>

ふれあい直売十文字（秋田県横手市）

<取組概要>

- ◆ 平成10年に農家28名で直売所を開設し、平成19年に現在地に移転し、「ふれあい直売十文字」として新たにスタート。
- ◆ 移転とあわせ、菓子や仕出し弁当、惣菜の製造・販売を目的とする加工グループを組織し、直売所で加工品を販売。
- ◆ 地元の伝統技術を活かした餅菓子や漬物などを製造することにより、野菜や果実が少なくなる冬の品揃えに貢献。



【売上額】

約2千万円(H17年)→約1億3千万円(H20年)

加工・直売

68 米粉パンの製造・販売等により経営の多角化・安定化を実現

<取組主体>

農事組合法人 ^{はらたい} 原体ファーム（岩手県奥州市）

<取組概要>

- ◆ 平成14年、集落の農家で「農事組合法人 原体ファーム」を設立。集積した農地で、水稻、大豆のほか、ピーマン、ブルーベリー、タラノメなどの作物を生産。
- ◆ 平成17年には加工販売施設「夢の里工房はらたい」を開設。米を自家製粉し、米粉パンの製造販売を行うことで経営の多角化・安定化を実現。
- ◆ 余剰労力を活用し、年間を通じた作業体系を確立。集落からの年間雇用者は21年度で延べ約1,800名。

【売上額(加工品)】

約1,200万円(H17年度)→約4,900万円(H21年度)



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・直売

69 果実の大規模生産と加工及び販売の一体化

<取組主体>

福岡 憲三 氏（愛知県日進市）

<取組概要>

- ◆ ぶどう、カキ、みかんなどの果実を生産。ぶどうは約2.8haを栽培しており、県内有数の大規模経営。
- ◆ ぶどうは顧客の要望に応え、20種類以上の品種を栽培。
- ◆ 消費地が近いという立地を活かし、直売所と宅配により、全量を直接販売。
- ◆ 生食用の販売のほか、ぶどうの一部、カキやみかんなどは全量ジャムやジュースへ加工して販売。



【顧客数】

3,500名(H20年)

加工・直売

70 水産物の加工・直売

<取組主体>

室津漁業協同組合女性部(兵庫県たつの市)

<取組概要>

- ◆ 平成14年に女性部で運営する直売所「魚魚市(とといち)」をオープン。16年からは飲食店営業の許可を得て、魚介類の販売だけでなく、水産加工品や惣菜メニューの開発に着手。
- ◆ 地域に伝わる漁家料理をベースに地元でとれた野菜や米を使った「魚魚市弁当(500円)」を開発。地域の高齢者を中心に人気で固定客が多い。



【売上額】

約1,800万円(H21年)

加工・直売

71 なにわの伝統野菜の生産・販売

<取組主体>

農業組合法人かなん（大阪府河南町）

<取組概要>

- ◆ 米や一般的な野菜だけではなく、なにわの伝統野菜(田辺大根、天王寺蕪等)を生産。少量多品目の栽培や標高差を利用した出荷時期の拡大などを実践し、地産地消を基本原則とした農産物販売を展開しつつ、郷土行事に合わせた加工品(あかねこ餅、米粉パン等)を開発・販売。
- ◆ 平成16年から町からの委託を受け、「道の駅かなん」の管理運営を行う。



【作付面積(なにわの伝統野菜)】

1.4ha(H16年)→3.8ha(H21年)

加工・直売

72 「環境こだわり米」を使った加工品の製造・販売

<取組主体>

農事組合法人万葉の郷ぬかづか（滋賀県東近江市）

<取組概要>

- ◆ 農薬・化学肥料を通常の半分以下に抑えた「環境こだわり米」の栽培など環境に優しい農業や消費者との交流を展開。
- ◆ 平成12年に加工施設と直売所を設立。加工部門では、女性農業者が中心となって、「環境こだわり米」を使った米粉パンやパウンドケーキを開発(米粉パンは30種類以上を開発)



【売上額(米粉パン)】

724万円(H18年)→867万円(H21年)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・直売

73 地場産もち米の加工販売

<取組主体>

農業法人 有限会社甲賀もち工房(滋賀県甲賀市)

<取組概要>

- ◆ 集落から厳選した10ha分のもち米等を活用した加工品(もち、あられ、米粉たい焼き等)を販売。厳選されたもち米については、60kgあたり2,000円の生産奨励金を上乗せ。
- ◆ 平成20年に、対面常設販売として名神高速道路の土山サービスエリアでの販売も開始。



【売上額】

3,400万円(H18年度)→6,500万円(H21年度)

加工・直売

74 地元農産物の有効活用により、耕作放棄地を解消

<取組主体>

農事組合法人 八尾農林産物加工組合(富山県富山市)

<取組概要>

- ◆ 地元の女性農家を主な構成員とする「農事組合法人 八尾農林産物加工組合」では、そば粉、山菜の缶詰、味噌、切り干し大根など、地元の農産物を使った加工品を製造。
- ◆ 平成19年には、加工場に直売所を併設し、消費者への直接販売にも取り組む。
- ◆ また、地元の中山間地の耕作放棄地を有効活用して栽培されているネマガリタケを使った、長期間保存可能なレトルト食品を開発し、販売に取り組む予定。

【耕作放棄地の解消(目標)】

約8ha(H25年度)



加工・直売

75 販売・加工で地元住人雇用の機会を創出

<取組主体>

(有)ふれあいの里上月(兵庫県佐用町)

<取組概要>

- ◆ 平成4年、地元に残っていたもち大豆を利用し、もち大豆みそが誕生。他に8種類の特産加工品を開発し、特産品として年間800万円の販売に成功。
- ◆ 平成8年に直売所が完成し、契約生産者の野菜やうどん等を含め、多数の商品開発を実施。
- ◆ 農産物生産従事者やグループ参加者といった多数の人々に生きがいづくりの場を提供。



【売上額】

約1億1,000万円(H18年度)

加工・直売

76 ブランド肉豚の生産、加工、直売と温泉等との多角経営

<取組主体>

株式会社 ヒルズ (宮城県柴田郡大河原町)

<取組概要>

- ◆ 昭和57年に「有限会社佐藤養豚場」を設立し、平成13年、社名を「株式会社ヒルズ」に変更。
- ◆ 養豚一貫経営で県内に4農場を有し、年間約4万頭を出荷。ブランド肉豚「和豚もちぶた」を生産。
- ◆ 平成15年に直売所「もちぶた館」を開設し、和豚もちぶたの精肉・加工品、地域農産物等を販売。平成18年には「おおがわら天然温泉いい湯」を開設するとともに、観光農園、体験農園などを運営し、地域活性化に貢献。

【雇用者数】

パートを含め従業員103名



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・直売 77 女性農家グループが起業し、地域に雇用を創出

<取組主体>

有限会社 てまひまグループ（岐阜県白川町）

<取組概要>

- ◆ 平成17年に女性農家19名で「(有)てまひまグループ」を組織し、加工・販売施設「てまひまの店」をオープン。地域農産物を活用した弁当、漬け物、惣菜等の加工・販売を開始。
- ◆ 添加物を使用しない安心・安全なこだわりの加工に取り組みつつ、積極的な新商品開発により、現在70品目以上のメニュー。（弁当、お寿司、芋もち、米粉ケーキ、とまとまんじゅう など）
- ◆ 「てまひまの店」を道の駅の隣に設置し、積極的に加工・販売に取り組むなど、女性の雇用機会を創出（従業員18名）。

【売上額】

約1,800万円(H17年度)→約3,800万円(H20年度)



加工・直売 78 都市近郊での観光農園で農産物の加工・販売

<取組主体>

(有)観光農園いわふね（栃木県岩舟町）

<取組概要>

- ◆ (有)観光農園いわふねは、平成15年に農園規模約10haの「いわふねフルーツパーク」を開園。（うち施設野菜約5.5ha、果樹約3ha）
- ◆ 農産物の摘み取り体験施設のほか、加工施設を備えた直売所を設置し、農産物の加工・販売を行い、農家と消費者の交流の場を提供。（毎年2.5～3万人程度の入園者があるが、うち9割が東京や埼玉、千葉など県外都心部。）



ぶどうの雨よけハウス栽培



いちごのベツ栽培

加工・直売 79 母ちゃんパワーで地域農業の活性化

<取組主体>

花巻農業協同組合（岩手県花巻市）

<取組概要>

- ◆ JA女性部の家庭菜園運動から、常設で新鮮、安全、安心を消費者に届けたいと、平成9年にJAいわて花巻農産物直売所「母ちゃんハウスだあすこ」を開設。
- ◆ 冬場の品揃えが課題となっていたが、ハウスの導入、貯蔵庫の確保等の工夫により野菜の周年栽培、出荷を行う。
- ◆ 女性起業により、菓子、惣菜、漬物など製造し、付加価値を高めた製品を通年で豊富な品揃えにより販売。

【売上額】

約8億4千万円(H21年)



加工・直売 80 トマトの多角経営による地域活性化

<取組主体>

(有)とまとランドいわき（福島県いわき市）

<取組概要>

- ◆ 2.3ヘクタールの大規模ガラス温室で平均3トン/日のトマトを生産。
- ◆ 平成15年にトマトの出荷を始め、敷地内に建設した直売所ではトマトのほか、トマトソース、ジャム等の加工品を販売。
- ◆ 温室による年間を通じたトマトの長期栽培を行うことで、地域の女性・高齢者を雇用し、地域の雇用にも貢献。

売上額【(トマト)】

約2億5千万円(H21年)

(うち直売所での売上額約9千万円)



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・直売

81 地元の魚の加工・移動販売車による販売

<取組主体>

輪島地区水産加工グループ(石川県輪島市)

<取組概要>

- ◆ 漁協の女性部が、商品になりにくいノロゲンゲなどの地元の魚を活用して干物、くんせい等の加工品を製造、販売。
- ◆ 平成21年からは、輪島市及び周辺において移動販売車による販売を実施。



【売上額】
200万円(H21年)

加工・直売

83 サンマの加工・販売

<取組主体>

釧路市漁業協同組合(北海道釧路市)

<取組概要>

- ◆ サンマの一大産地である利点を活かして、水揚げ直後の新鮮なサンマを加工した瞬間凍結した製品を製造。
- ◆ 回転ずし店や生協に、あぶりサンマ原料や切り身製品などとして直接販売し、高い鮮度により好評を得ている。



【売上額】
2億8千万円(H20年)

加工・直売

82 地元産そばを使ったそば処の経営

<取組主体>

(有) 荒神の里 (奈良県桜井市)

<取組概要>

- ◆ 造成農地の有効利用を図るため、地域特産物としてそばを導入。栽培から加工・販売まで一貫して地元で取り組んでいる。
- ◆ そばの栽培だけでは利益が少ないため、収穫したそばの加工販売を検討。平成14年度に集落全員が出資する有限会社を設立し、翌年に『そば処』を開店。また、農産物直売所等も併設。
- ◆ 農産物販売による農家の生産、収入の増が図られ、そば栽培の生産費用を会社が補償することで、造成畑での耕作放棄地の抑制と有効利用につながっている。

【売上額】8,800万円(H17年度)



加工・レストラン

84 地域資源を生かした農村体験、どぶろく作り

<取組主体>

農村体験館 八平 (兵庫県豊岡市)

<取組概要>

- ◆ 過疎化が進む集落の未来を案じた地区住民が、地区の集会所や倉庫を改築し、農村体験ができる農家民宿「農村体験館 八平」を平成9年に開設。地域資源を生かし、そば打ち体験や、農作業体験、田舎料理の提供。
- ◆ 平成16年度には、関西で初めて「どぶろく特区」に認定。地域にある米とおいしい水、冷涼な地域の風とを活かして「どぶろく」を製造・販売。

【来客数】
年間約3,000名(H20年度)



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・レストラン 85 加工品、体験工房などを通じて伝統文化を継承

<取組主体>

有限会社 せいわの里 (三重県多気郡)

<取組概要>

- ◆ 平成17年に地元農家の女性35名の共同出資で「有限会社せいわの里」を設立。全量地元産大豆(生産量の2/3)を使った味噌や豆腐、おからドーナッツなどのお菓子、漬け物の加工・販売。
- ◆ このほか、旬の野菜を販売したり、加工体験ができる工房、農村料理を提供するレストランを併設することにより、休日150人以上、平日でも100人以上来客。

【売上額】

約7,000万円(H20年度)
(ここ3年間で3倍の伸び)



加工・レストラン 86 地域特産の「四方竹」の加工等による周年需要の創出

<取組主体>

白百合グループ (高知県南国市)

<取組概要>

- ◆ 昭和51年にたけのこ農家の女性6名が「地域の味を守りたい」、「地域を元気にしたい」との思いからグループを結成。
- ◆ 四方竹しほうちくの加工品開発とともに、四方竹を活用した郷土料理づくりを行うことで、四方竹の周年需要を創出。
(加工品の例:四方竹の未利用基部を活用したキムチ漬けを平成9年に開発、JA南国市と連携して大量生産・周年出荷体制を確立)
(平成17年には農家レストラン「しらゆり亭」を開業)



加工・レストラン

87 川魚料理専門のレストラン

<取組主体>

天降川漁業協同組合天降川あゆ生産者グループ
(鹿児島県霧島市)

<取組概要>

- ◆ アユ、ウナギ、コイ等を養殖している生産者グループが、川魚料理専門のレストランを開業。
- ◆ レストランでは、アユ甘露煮、アユつくね揚、コイのマリネ、ウナギかば焼きなど20種類以上の様々な川魚料理を提供。



【売上額(目標)】
400万円(月間)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・直売・
レストラン

88 米パン工房と農家レストランを併設した 食文化提案型直売所

<取組主体>

有限会社ファームビレッジさんさん（福井県福井市）

<取組概要>

- ◆ 県内の農家グループが母体となり、平成13年に農産物直売所「ファームビレッジさんさん」を開設。平成17年には米パン工房と農家レストランを併設。
- ◆ 生産者と消費者のつながりを重視し、生産者による対面販売や農家レストランにおける子育て世代への食生活改善メニューの提案、伝承料理の提供を実施。また、収穫祭や収穫体験などの体験交流も実施。



【売上額】

約1億円(H17年度)→約1億2千万円(H20年度)

加工・直売・
レストラン

89 高付加価値ジェラートの開発

<取組主体>

農業生産法人 有限会社池田牧場（滋賀県東近江市）

<取組概要>

- ◆ 安全・安心、健康、本物志向に応えたジェラート加工販売や地元素材を活用した農家レストランを展開。酪農経営を発展させ、法人化、所得拡大、ブランド商品の創出を実現。
- ◆ 農業者として自立を目指す若い女性の常時雇用や、地元女性の就労の場としての臨時雇用を行い、地域の雇用創出に貢献。（パートを含め30名の従業員）



【ジェラート販売額】

3,900万円(H9年)→1億円(H21年)

加工・直売・
レストラン

90 豚肉加工を中心とした農業公園・レストラン経営

<取組主体>

農事組合法人伊賀の里モクモク手作りファーム（三重県伊賀市）

<取組概要>

- ◆ 養豚農家19戸が農事組合法人を設立し、ウインナー・ハム等の手作り加工品を製造。
- ◆ ソーセージの手作り体験教室をはじめ、直売施設やレストランを含む交流型の農業公園を開設。特にバーベキューハウスでは、自ら生産した伊賀豚や地ビールを提供。
- ◆ 年間来客数は約50万人で、都市住民との交流の場として発展。



【売上額】約17億円(H21年度)

加工・直売・
レストラン

91 魚の加工・直売等の多角的経営を実践

<取組主体>

つ_のしま
しおかぜの里角島（山口県下関市）

<取組概要>

- ◆ 漁協の女性部を中心に、加工場・直売所・レストランを備えた施設「しおかぜの里角島」を整備。
- ◆ 地場産の魚を使用した刺身やワカメをうどん麺に練り込んだ新商品を開発し、観光客等に販売。



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・直売・
レストラン

92 酪農の複合経営により地域雇用の創出

<取組主体>

ノースプレインファーム株式会社（北海道紋別郡）

<取組概要>

- ◆ 従来酪農経営を営んでいたところ、昭和63年に乳処理業許可を取得し、牛乳の直売・宅配事業を開始。（併せて株式会社化）
- ◆ その後、乳製品や肉製品、菓子の加工・販売を行うほか、平成3年には、牧場に直売所兼レストラン「ミルクホール」を併設。（加工品：チーズ、バター、プリン、生キャラメル、ハム、ソーセージなど）
- ◆ 約100名の従業員を雇用。うち約8割が地元雇用であり、地域に大きな雇用を創出。



【売上額】

約1億円(H4年度)→約5億円(H21年度)

加工・直売・
レストラン

93 レストランや直売所の経営で地域に貢献

<取組主体>

ファームレストラン ハーベスト

（有限会社 仲野農園、有限会社 仲野フルーツガーデン）（北海道夕張郡）

<取組概要>

- ◆ りんごなどの果実、カボチャなどの野菜の生産だけでなく、ジュースやジャムの加工のほか、自家製農産物を用いた料理を提供するレストラン「ハーベスト」を展開。
- ◆ また、自家製農産物の加工品だけでなく、地域の野菜や民芸品などを販売するファームショップをレストランに併設。20名（うち7名がUターン）を雇用するなど、地域に貢献。



【売上額(レストラン)】

約8千万円(H21年度)

加工・直売・
レストラン

94 食の安全・安心を目指した こだわりの酪農経営

<取組主体>

有限会社 箱根牧場（北海道千歳市）

<取組概要>

- ◆ 健康な牛づくりを目指して、牧草などの餌は全て自家栽培するなど、こだわりの生産を実施。また、酪農のほか、豆類やカボチャ、トウモロコシなどの有機農産物を生産。
- ◆ 畜肉乳製品、有機農産物加工品の製造・販売だけでなく、バターづくり等の体験工房、レストランなどの多角的経営を展開。（加工品：チーズ、バター、プリン、ソーセージ、豆甘煮缶詰など）
- ◆ 平成10年には販路確立のため、販売会社を設立。東京都内に直営店を出店。
- ◆ 観光牧場として、全国から年間約25万人もの来客。



加工・直売・
レストラン

95 女性の主体的取組による地域活性化

<取組主体>

こうち寄りん菜屋(こうち交流促進施設運営協議会)（広島県東広島市）

<取組概要>

- ◆ 平成12年に地域の女性農家らで任意団体を設立し、地域の農産物を販売する農産物直売所と食堂を併設した「こうち寄りん菜屋」を開設。
- ◆ 平成16年には、加工場を併設し、地場農産物を用いた仕出し弁当、惣菜などを製造。地域に所得・雇用機会を創出するだけでなく、女性の経済的自立にも貢献。

【売上額】

約780万円(H12年度)→約2,500万円(H20年度)

【出荷者数】

68名(H12年度)→110名(H20年度)



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・直売・
レストラン

96 手づくりハムの製造・販売

<取組主体>

手づくりハムのばあく（奈良県五條市）

<取組概要>

- ◆ 昭和58年に生産者を含む16名の出資で「手づくりハムのばあく」を結成し、平成9年に「ばあくのゲストハウス&ソーセージ工房」をオープン。添加物を一切使用しないハム等を開発・販売するとともに、ゲストハウスでも提供。
- ◆ 地域の農家や加工製造業者とネットワークを形成し、それぞれの得意分野を生かしてイベントを開催するなど地域の活性化に貢献。



【売上額】
2,680万円(H12年)→3,500万円(H21年)

加工・直売・
レストラン

97 直売所を中心とした複合拠点施設による地域振興

<取組主体>

(株)産直あぐり（山形県鶴岡市）

<取組概要>

- ◆ 農産物直売所から地域の特色を活かした「フルーツタウン構想」の拠点として農産物加工施設や農家レストランを整備。
- ◆ 直売所や農家レストランの運営全般のほか、料理教室や体験農園、学校給食用の食材提供などで地域の女性が活躍。
- ◆ 店頭での対面販売、東京での産直販売など、地元消費者や都市住民への販売に積極的に取り組む。

【売上額】3.5億円(H19年度)
(組合員の農産物、加工施設、レストラン等の合計売上額)



東京での産直販売

加工・直売・
レストラン

98 カンパチの加工及び販売

<取組主体>

垂水市漁業協同組合（鹿児島県垂水市）

<取組概要>

- ◆ 錦江湾において約50の経営体によりカンパチを養殖。水揚げしたカンパチを漁協に併設した加工場において加工し、フィレ、ロイン、あぶりなど様々な加工商品を製造、販売。また、漁協が開設したレストランにおいても様々なカンパチ料理を供給。
- ◆ 鹿児島の「県のさかな」の認定を受けた上、「海の桜勤」のブランド名で販売を促進。



【売上額】4億2千万円(H20年度)

加工・
契約取引

99 外食産業と連携した商品の開発・販売

<取組主体>

こさがわ
農事組合法人 古座川ゆず平井の里（和歌山県東牟婁郡）

<取組概要>

- ◆ 「古座川ゆず平井の里」は、企画した「ゆずドリンク」をモスバーガーに売り込んだところ、品質向上・衛生管理の指導を受けた上で、モスバーガーでの「ゆずドリンク」販売を実現。
- ◆ 通年供給が困難、少量製品というデメリットを抱えるが、これらを逆手に取り「季節限定」、「地域限定」、「地産地消」という付加価値をPRLして販売。
- ◆ 新商品の開発・販路開拓を続けることで安定した売上を確保しており、ゆず加工品は20種類以上。



ゆずドリンク

【(加工品)売上額】9,400万円(H20年度)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・ネット販売 100 「伊勢本かぶせ茶」のブランド化による需要開拓

<取組主体>

水沢茶農業協同組合（三重県四日市市）

<取組概要>

- ◆ 地元の茶の生産者が共同出資して設立した茶専門の農業協同組合で、組合員の生産した伊勢茶の仕上加工や販売等を実施。
- ◆ 平成19年には、伊勢本かぶせ茶が、製法と原料へのこだわりの基準を満たした地域食品にのみ与えられる「本場の本物」認証を取得。
- ◆ 伊勢本かぶせ茶の水出し茶「SUI-CHA」を開発。フレンチやイタリアンなどの洋食とのマッチングを提案し、需要開拓を図っている。



水出し茶「SUI-CHA」

【販売量】

約6,700袋(H20年)→約10,000袋(H21年)

加工・ネット販売 101 加賀の伝統野菜「五郎島金時」を使った加工

<取組主体>

有限会社 かわに(石川県金沢市)

<取組概要>

- ◆ 加賀野菜の五郎島金時(さつまいも)の生産だけでなく、焼き芋パックや五郎島金時を使用した加工品(焼き芋ペースト)などの原材料を製造。
- ◆ このほか、下位等級品の更なる有効活用として、カットさつまいもを開発し、22年度からの販売を予定。
- ◆ 生産においても、圃場ごとにきめ細やかな施肥・灌水・履歴管理を鳥取大学と連携して実施しているほか、収穫後の低温施設への貯蔵により、品質の向上・安定に努めている。



【売上額(カットさつまいも:目標)】

約200万円(H22年度)→約3,000万円(H24年度)

加工・ネット販売 102 加工事業の展開により地域活性化に貢献

<取組主体>

有限会社 すき特産（宮崎県小林市）

<取組概要>

- ◆ 地域で生産される栗やゆずの加工・販売を実施。
(地域で生産される加工向け栗・ゆずの9割が同社に出荷)
- ◆ 新商品の開発を続けることで安定した売上を確保しており、現在の栗とゆずの加工品は20種類以上。
(加工品:栗の甘露煮、栗ようかん、栗パイ、ゆずこしょう、ポン酢、菓子など)
- ◆ 生産者との合意による取引価格の事前決定により、地域の生産者の経営の安定化にも貢献。



加工・ネット販売 103 しそジュースの加工・販売により耕作放棄の防止に寄与

<取組主体>

おおまごえ
大馬越地区コミュニティ協議会（鹿児島県薩摩川内市）

<取組概要>

- ◆ 平成17年度、地域の自治会をはじめとする各種団体で協議会を設立。しそを栽培し、しそジュースの商品化に取り組み、平成19年から本格的に販売を開始。
- ◆ 栽培から加工までの一連の作業は高齢者を含む地区民が一体となって実施。ジュースは地域の交流施設のほか、インターネットでも販売。
- ◆ 栽培には遊休農地1haを活用しており、耕作放棄の防止に寄与。



【売上量】

約2千本(H19年)→約3千本(H20年)

6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

加工・輸出

104 しその加工による海外を含めた販路開拓

<取組主体>

有限会社 吉川農園 (熊本県合志市)

<取組概要>

- ◆ 平成6年から周年出荷で大葉を生産。有機栽培で大葉の「生葉」を出荷してきたが、規格外品の有効活用を図るため、加工品の開発に積極的に取り組み、現在、大葉を使った加工品は10種類以上。(加工品:青しそ濃縮ジュース、青しそ茶、青しそめん、そば、うどん、香料、赤しそ色素等)
- ◆ 新たな販売先の確保として輸出も平成18年度から開始。香港、シンガポール、米国等に生葉、加工品を輸出。

【作付面積】

30a(H6年)→450a(H21年)



加工・輸出・
ネット販売

105 有機農産物の生産・加工・販売

<取組主体>

金沢農業(石川県金沢市)

<取組概要>

- ◆ 100haを超える広大な耕地で大豆や大麦の有機栽培を実施。
- ◆ 収穫した農作物は食品メーカーやホテル、小売店に販売しているほか、平成14年には加工・販売を担う「株式会社金沢大地」を設立し、みそや豆腐などの加工食品のネット販売に取り組む。
- ◆ 平成20年には米国とEUの有機認証を取得し、スペインに有機大豆を輸出するなど、海外への販路拡大にも努めている。

【売上額(販売・加工部門)】

約6千万円(H20年度)→約7千万円(H21年度)



金沢農業の井村氏

加工・直売・
輸出

106 サツマイモの生産・加工・販売の一貫体制

<取組主体>

有限会社 コウヤマ (熊本県上益城郡)

<取組概要>

- ◆ サツマイモの生産から加工、販売までの一貫体制を確立。サツマイモに付加価値を付けたオリジナルの加工品の開発・販路拡大に取り組んでおり、現在売上額のうち加工品の割合が約5割を占める。(加工品:いきなり団子、アイス、プリン、焼酎 等)
- ◆ 平成15年には加工場横に販売店を開設し、「芋屋長兵衛」ブランドを構築するなど販売力強化に取り組んでおり、平成19年には輸出も開始。

【作付面積】

45ha(H18年)→66ha(H21年)

【売上額(加工品)】

約8千万円(H18年)→約1億1千万円(H20年)



直売・
ネット販売

107 消費者重視の都市近郊直売所で経営発展

<取組主体>

農産物直売所カガヤキ農園(有限会社AFカガヤキ) (新潟県新潟市)

<取組概要>

- ◆ たい肥づくりと経営安定を目指す「^{そうみ}沢海土作り会」の生産者が中心となって平成4年に「(有)AFカガヤキ」を設立し、水稲や露地野菜などを生産するとともに、平成11年に直売所「カガヤキ農園」を開設。(年間約6万人が来店)
- ◆ その他、ダイレクトメールやインターネット、イベントによる直接販売や生協との契約取引を実施。

【売上額】

約8,700万円(H11年)→約1億7,600万円(H21年)

【出荷農家数】

約20名(H11年)→約70名(H21年)



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

直売・
レストラン

108 食堂を併設した直売所で地産地消を推進

<取組主体>

農産物直売所 スマイル(多気郡農業協同組合) (三重県多気郡)

<取組概要>

- ◆ 生産者の要望を受け、既存の直売所に加え、平成21年に「スマイル多気店」を開設。
- ◆ 1日3回のメールで個々の会員生産者に販売状況を配信するなど、生産者自身が出荷量を調整するシステムを整備。
- ◆ 食堂「自然の味処すまいる」を併設し、食材を供給することで地産地消を推進。

【売上額(地場農産物)】

約1億円(H20年度)→約1.2億円(H21年度)

【会員生産者数】

約400名(H20年度)→約580名(H22年度当初)



直売・レストラン

109 直売所を中心とした複合拠点施設による地域振興

<取組主体>

(株)げんきの郷 (愛知県大府市)

<取組概要>

- ◆ 都市近郊地域において、地場農産物の直売所、加工販売、農村レストランなどからなる地産地消の複合拠点施設を整備。
- ◆ 地場農産物の生産増加や農業所得の向上、後継者や新規就農者の確保、雇用の創出等、地域及び地域農業の振興に大きく貢献。(出荷者約700名、従業員(正職員、パート含む)約230名)
- ◆ 観光拠点としての役割も持ち、年間200万人を超える来客。

【売上額(直売所)】

約19億円(H19年度)



研究・
成果利用

110 加工に適するキャベツ品種の育成

<取組主体>

(株)タキイ種苗 (京都府京都市)

<取組概要>

- ◆ 加工・業務用ニーズに対応し、大玉で可食部分の多いキャベツ品種「夢舞台」を育成。
- ◆ 「夢舞台」は1玉当たりの重量が2kg(通常:1~1.3kg)と大きく、芯が小さいことから、加工適性が高く、その普及が期待。



研究・
成果利用

111 リコピンをより多く含む加工用トマト品種の開発・利用

<取組主体>

カゴメ(株) (愛知県名古屋市)

<取組概要>

- ◆ 生活習慣病を招く原因ともなる活性酸素を消去する働きを持つリコピンがピンク系の生食用トマトの3倍含まれる加工用トマト「凜々子」を育成。
- ◆ 「凜々子」は、契約農家に依頼し国内で生産。酸分と糖度のバランスに優れているので、トマトジュースの原料に使用。

ふつうのトマト

凜々子



ジュースに加工しやすいように、「凜々子」はヘタが取れやすい性質をもっている



6次産業化の取組事例【農林水産物を活用した取組】

研究・
成果利用

112 栗の新品種の生産・利用技術の確立

<取組主体>

(独)農研機構果樹研究所 (三重県津市) ほか

<取組概要>

- ◆ 渋皮が剥けやすいニホングリの新品種「ぼろたん」を育成(平成19年に品種登録)。
- ◆ 「ぼろたん」の早期普及を図るため、栗の主産県の試験研究機関と連携し、安定的な収量確保を図るためのせん定技術の確立や貯蔵技術の開発等に取り組む。
- ◆ 今後、産地において「焼き栗」等への加工が期待。



研究・
成果利用

113 高アントシアニン茶品種育成と利用食品開発

<取組主体>

(独)農研機構野菜茶業研究所 (三重県津市) ほか

<取組概要>

- ◆ 新芽中のアントシアニン含量が高く、炭疽病等に強い茶の新品種「サンルージュ」を育成。(※アントシアニンには抗疲労作用あり)
- ◆ 大学や民間企業と共同で、「サンルージュ」の短期大量生産技術の開発や同品種を用いた食品素材の開発に取り組む。



サンルージュ



左:サンルージュ 右:やぶきた

6次産業化の取組事例【副産物を活用した取組】

加工 114 間伐材や林地残材を用いたペレット燃料の製造

<取組主体>

上伊那森林組合（長野県伊那市）

<取組概要>

- ◆ 間伐材や林地残材等を利用して木質ペレットを製造。
- ◆ 製品は「ピュア1号」と名付けられ、袋詰めやバラの形態で代理店を通じ販売。公共施設等に利用されているペレットボイラー、ペレットストーブで利用。
- ◆ 15年度は68台のペレットストーブを購入し、上伊那地域の全小・中学校へ貸与。



【販売量(ペレット)】
約1,200t(H21年度)

加工 115 多収穫米を用いたバイオエタノールの製造

<取組主体>

JA全農（新潟県新潟市）

<取組概要>

- ◆ 地域で生産された飼料用多収穫米を原料に、バイオエタノールを製造。
- ◆ 休耕田を活用して、飼料用品種からエタノールを製造するため、食料との競合の心配がなく、水田の有効活用に貢献。



加工 116 家畜排せつ物を活用した成分調整ペレットたい肥の製造

<取組主体>

JA菊池（熊本県合志市）

<取組概要>

- ◆ 畜産農家が持ち込む家畜排せつ物を利用して、牛糞たい肥に鶏糞たい肥を混合し成分調整したペレットたい肥を製造。
- ◆ 耕種農家にとっては、ペレットたい肥は良質で使いやすく、手持ちの機械で散布可能なため、省力化が期待。
- ◆ 畜産農家にとっては、一次処理後のたい肥を施設に持ち込み、二次処理以降はJA菊池が担当するため、家畜排せつ物の処理に必要な労働時間を短縮。



契約取引 117 木質ペレット用間伐材の収集・販売

<取組主体>

ゆきぐに森林組合（新潟県上越市）

<取組概要>

- ◆ ゆきぐに森林組合は、間伐及び間伐材の収集を行い、木質ペレット製造事業者へ販売。
- ◆ ゆきぐに森林組合では、間伐材の品質維持のため、間伐直後に樹皮を剥ぎ、搬出作業までに水分を下げる作業や間伐材を一定の寸法に裁断し、運搬中に小石等が食い込むことによる荷傷みの防止を図っている。



6次産業化の取組事例【副産物を活用した取組】

研究・
成果利用

118 ヒトデを活用したたい肥の製造実証試験の実施

<取組主体>

仙南4地区小型底引き網漁業連絡協議会（宮城県仙南地区）

<取組概要>

- ◆ 赤貝やホッキ貝の天敵であるヒトデをたい肥化する実証試験を実施。
- ◆ ヒトデのたい肥は、牛糞と使用済みの食用油などにヒトデを混ぜ合わせ、約3ヶ月間熟成させ製造。
- ◆ 赤貝やホッキ貝といった漁業資源の確保とともに、漁業者によるヒトデの有効活用が期待。



研究・
成果利用

119 間伐材を原料とした飼料の製造・販売

<取組主体>

宮崎みどり製薬株式会社（宮崎県）

<取組概要>

- ◆ スギ間伐材を原料とした家畜粗飼料を開発。
- ◆ 給餌試験において、通常飼料と比較して問題なく、毛艶が良くなるといった良好な結果が得られている。
- ◆ 森林組合などによる低質の間伐材の有効活用が期待。



6次産業化の取組事例【自然エネルギーを活用した取組】

直売

120 直売所への太陽光発電システムの設置

<取組主体>

さがみ農業協同組合（神奈川県藤沢市）

<取組概要>

- ◆ 平成17年、直売所「わいわい市」のオープンに併せて、直売所の駐車場の屋根に太陽光発電設備を設置。
- ◆ 太陽光により発電した電力は直売所に供給。
- ◆ 店内には、発電量を表示するパネルを設置。



駐車場屋上



発電量を示すパネル

研究・
成果利用

121 小水力発電を核とした脱温暖化の地域社会形成に関する研究

<取組主体>

NPO法人やすらぎの里いとしろ（岐阜県郡上市）
（地域の住民が中心。青空市の実施やオートキャンプ場の運営受託等）

<取組概要>

- ◆ 小水力発電に用いる水車の開発や成果の事業化等を実施。（落差0.5mの水路で2号機（らせん型）は841wを記録）
- ◆ 農産物加工所へ電力を供給する小水力発電の設置に向け、流量調査や水車の設置位置等、予備的調査を実施中。



研究・
成果利用

122 温泉熱を利用した温室の暖房システムの実証

<取組主体>

株式会社 ^{せんじゅ}千手（新潟県十日町市）

<取組概要>

- ◆ 隣接する温泉浴場の廃湯を、加工・直売向けいちごの温室の暖房に活用する「温泉廃湯熱利用システム」の実証を実施。
- ◆ 温泉の廃湯を蓄熱タンクに備蓄し、ハウス底面に設置した地中管内を流動させた後、栽培用ベッド内を加熱。
- ◆ 暖房に要する燃料消費量の削減のほか、ハウス周年の融雪による除雪作業の軽労化とコスト低減が期待。



温室内部の様子



温水パイプ

研究・
成果利用

123 地域資源(雪)を活用した特産品づくり

<取組主体>

北いぶき農業協同組合(沼田支所)(北海道沼田町)

<取組概要>

- ◆ 雪の冷熱を粉貯蔵に活用し、貯蔵のランニングコストを4分の1に削減。
- ◆ 雪冷貯蔵した米を「雪中米」としてブランド販売し、実需者・消費者から高評価。
- ◆ 「雪のまち(克雪から利雪・親雪へ)」として、地域全体でPRを行い、雪を活用した新商品開発や省エネ活動に取り組みされており、今後の更なる展開が期待。



雪室への雪入れ作業

